

福岡

地域福祉活動職員の

ま な こ

地域福祉活動推進のため

No. 69

2010年12月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

★報告

《地職連研修事業 2010》

コミュニティワーカー養成研修会

CWの8つの領域を  
事例をもとに考える  
コミュニティワーカーの  
視点、技術、役割は



(写真左) 古賀靖教さん/苅田町社協  
(写真右) 半田由美子さん/尾道市社協

県地職連が主催する、今年度の「コミュニティワーカー養成研修会」が、10月からスタートしています。コミュニティワークの8つのモデルをもとに、社協ワーカーの技術や視点について学ぶ研修です。2回目は事例をもとに、コミュニティワーカーの役割を学びました。(11月20日、於：小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」にて実施)

事例は、尾道市社協(広島県)の半田由美子さんからは「ボラ連が商店街の空き店舗を利用して運営する『荒神堂サロン』の取り組みについて」、苅田町社協(福岡県)の古賀靖教さんからは「苅田町第2次地域福祉活動計画について」、それぞれ提供していただきました。

(報告/志免町社協 宿利)

①「荒神堂サロン」の

取り組み

■半田由美子氏(尾道市社協)

「荒神堂サロン」が

出来るまで...

荒神堂サロンとは、商店街の空き店舗を使用した取り組みで、ボラ連が主体となり運営されています。この空き店舗は、認知症の人と家族の会の会員さんの知り合いのお店で「何か役に立つなら使ってほしい」ということで家族会の方から社協に相談があったとのことです。

当初商店街に空き店舗があるというお話があった時は、1年間は何も使用方法がなかったそうです。当時のワーカーは社協・家族会・ボラ連の3者で繰り返し話し合いを続けていきました。そして、「市の中心地にボランティアの拠点をつくりたい」「皆さんが学生時代に思い出のある商店街の活性化」といった内容で話を進めると、話が具体化してきて、「チャンス」が「カタチ」になったとのことでした。

また、この頃、社協とボラ連に寄付があり、それを使って建物の改修をされたそうです。

月曜から土曜日まで、ボランティア

《荒神堂サロンの1週間》

月曜日	個人ボランティア (第1・3) 朗読ボランティア (第2・4)
火曜日	おりづるの会 (第1・3) おのママサポーターズ (第2・4)
水曜日	どんぐりの会
木曜日	精神保健福祉ボランティアコスモス
金曜日	認知症の人と家族の会 在宅看護職の会
土曜日	ほおずきの会



社協ワーカーの関わりは

最初に空き店舗の話があった時、プラスと捉えるか、マイナスと捉えるか。これは社協ワーカーによって違つのではないかというお話がありました。

当時関わったワーカーは日頃からボラ連や所属する各グループとの連携を深め、士気を高めること、やる気を継続させることを常に意識し、携わっていたとのことでした。

ボラ連にこの話をする時に「無理を

しない」「利用者数は関係ない」ということを何度も話し、ボランティア同士との交流でもいいと説明し、いかに気軽に考えていただけたかということに重点を置いて、働きかけを行ったとのことでした。

また、駐車場の確保のため、役場に働きかけを行い、無料で借りられるようになったとのこと。ボラ連・役場との日頃からの連携の大切さを改めて実感させられました。

その日の担当のグループには、必ず日誌を書いてもらっているとのこと。今日は何がなにかあったのか、どんな方が来られたのかなどです。例えば、現在

エンパワメントを

高めるための関わり

イベントの開催やよりよい有効活用などをあげられましたが、何よりもボラ連のやる気の継続を強く言われていました。半田さんは、ボラ連に色々な事業を提案し、刺激を与え続けることが大事だと言われていました。実際、映画上映会やマップ作りなど、様々な企画を提案し、実施することで、資金確保やボラ連のエンパワメントの向上に努めていたそうです。また、日頃からの関わりの中で信頼関係を築き、このワーカーについていけば大丈夫だと思われたいいけなと言われていました。

②第2次苅田町地域福祉

活動計画について

■古賀教靖氏 (苅田町社協)

プロセス重視の

計画作り…。

苅田町社協の古賀教靖さんより、第2次地域福祉活動計画について説明をいた

いただきました。

これは、平成21年から平成25年の計画で、約1年をかけてアンケート調査や福祉団体等のヒアリング、地域懇談会などを行い、それらをもとに、計画づくりを進めたものです。

古賀さんは、コミュニティワーカーとして計画作りの中で何よりも大事にしたのはプロセスだったとお話されました。

アンケートやヒアリングを通して、地域住民からは「社協がどんな活動をしているのかを知れた」「地域活動に関心を持つきっかけになった」などの意見が出てきたそう、調査が広報になったそうです。

また、計画策定にあたっては策定委員会にて検討していったとのことですが、この委員もこのプロセスの中で福祉問題への意識の変化が見られたそうです。

社協内部にも変化が…

計画を作っていく過程で、課題や事業について他の職員との話し合いが増えたことも良かった点の1つと話されました。

普段流動的にされていた事業や、1人で抱え込んでいた課題などについても、この計画を通して話し合うことが

できたということです。

### カギをにぎるワーカー

「ヒアリングの相手先の選定や、アンケート調査の質問項目については、これまで社協が関わってきた団体や福祉課題に関するテーマがどうしても多くなりがちです。その意味では、普段から視野を広くし、様々な福祉問題について関心を持つておくことが必要です。

そのことが、地域福祉活動計画をさらに深めていくことになることでした。つまりワーカーの課題意識が大きなカギになるのです。

#### ■稲葉先生よりコメント

### コミュニティワーカーの

#### 役割は:

8つのモデル(下記参照)に照らし合わせてみると、尾道市の荒神堂サロンは「②機能的コミュニティの組織化」、苅田町の地域福祉活動計画は「④社会計画」が最も近いでしょう。

もちろん、これらの取り組みが1つのモデルの中だけに納まるのではなく、その他のモデルとも関連しながら取り組みが進められているようです。

今回の研修で大切なのは、コミュニティワーカーがどのような役割を担う

のか、ということですが。

尾道市社協の場合は、まず、ボラ連を組織化し支援していました(オルガナイザー)。そして、企画立案者でもあり、事業をするのはボラ連。その時にワーカーはファシリテーター(促進者)でした。さらに、ボラ連のエンパワメントを高めるためにエデュケイター(教育的な役割)でもありました。

さらに、エデュケイターしながら信頼関係やネットワークを広げていき、さらに荒神堂サロンを活用してニーズキャッチにもつなげていました。

苅田町社協の場合は、計画づくりをプロジェクトゴールとし、計画づくりのプランナー(計画者)、また計画策定委員会を組織化するオルガナイザーの役割もあつたかもしれません。さらに、住民へのエデュケイター、計画作りのファシリテーター、アンケートやヒアリングを行う調査者としての役割も担っていました。

2つの事例で共通するのは「ネットワーク」です。ワーカーが常日頃、住民や福祉団体、関係機関などいかにつながっているか。また、つなげているか、ということですが。

この8つのモデルは、アメリカで発展してきたものです。日本型のコミュニティワークのモデルをつくるための参考として活用していただきたいと思っ

ます。

### ○感想

当社協においても、平成24年度からの5カ年計画として、「第4次地域福祉活動計画」を作成する予定としており、計画づくりに取り組んでいるところです。今回の事例報告でもあつたように、計画づくりの段階において、住民の声に耳を傾け、社協として本真に取り組まなければいけない課題に取り組めるよう、その基本となる計画が作ればと思っ

### ■M. ウェイルら「8つのCP実践モデル」 (1995, 1996, 2005)

	8つの領域	コミュニティワーカーの役割
①	近隣・コミュニティの組織化	オーガナイザー・ファシリテーター・教育者・コーチ
②	機能的コミュニティの組織化	オーガナイザー・アドボケイト・伝達者・ファシリテーター
③	社会的・経済的コミュニティ開発	交渉者・促進者・プランナー・教育者・マネージャー
④	社会計画	調査員・事業立案者・伝達者・プランナー・マネージャー
⑤	プログラム開発/コミュニティとの連絡・調整	スポークスパーソン・プランナー・企画書執筆者・マネージャー
⑥	政治的・ソーシャルアクション	アドボケイト・オーガナイザー・調査者・候補者
⑦	連携化	媒体者・交渉者・スポークスパーソン
⑧	社会運動	アドボケイト・ファシリテーター



ティワーカーとして何をすべきかということも考えたいと思います。

★全ての社協職員を対象に研修会を開催します！

## 社協の総合力を生かす ～これぞ社協の底力～

と き 平成 23 年 2 月 27 日 (土)～28 日 (日)

ところ 原鶴温泉パーレンス小野屋 (朝倉市)

★主催 福岡県地域福祉担当職員連絡会  
(\*詳細は後日郵送します)

この十年間、介護保険・平成の大合併と大きな転機がありました。営利運営、地域性、既得権など職員の皆さんを悩ませてきた課題に対処すべく大変だったことと思います。しかし、そのような中であっても社協の使命は変わるものなのでしょうか？

「内閣府新しい公共円卓会議」では、「社会福祉協議会は行政依存度が高く非効率」と名指して指摘されており、私たち職員は「そんなことはない」と言えるのでしょうか？

この研修会では「社協だからこそ・・・」を皆さんで考えます。

障害のある人の「きょうだい」の話題です(以下、「きょうだい」と記載)。きょうだいの思い：あまり耳にすることはないかもしれませんが、本人や親だけでなく様々なことで悩んでいるきょうだいが多くいるようです。「結婚したい人がいるが、兄がいることを理由に相手の両親に反対される」「姉と一緒にいると、周りから変な目で見られ、嫌な気持ちになった」「幼い頃、妹を理由にいじめられたり、からかわれたことがある」

## 編集後記 —編集者のつぶやき—

「親は弟の世話にかかりきりで、あまりかまってもえなかった」  
「親亡き後、弟の面倒を見るのは自分かと思うと不安を感じる。私にも自分の暮らしかあるのに、弟の世話までと思うと気が重い」  
きょうだいの言葉です。  
そして、何より問題なのはこれらの悩みを「誰にも話せなかった」「話したことがない」という人が多いこと。「特に親には気を使って話せなかった」という人も。きょうだいが集い、同じ立場で語り合える場が必要では…と考えています。  
1月の終わりに「きょうだいの集い」を行う予定にしています。集いを重ねていき、近い将来「きょうだい会」に組織化できるよう、働きかけていきたいと思っています。(U.Y)

福岡県地域福祉活動職員連絡会 研修事業

## コミュニティワーカー 養成研修会に参加しませんか？

本号でもお伝えした研修会。次回以降の内容は以下のとおりです。途中からの参加もOK！積極的な参加、お待ちしております！

③ 12月17日(金) 13:00～17:00

(会場/筑後市総合福祉センター)

■吉田瑞穂氏(中津市社協三光支所/大分県)

【近隣及びコミュニティの組織化】

⇒地域課題に対する住民の取り組みと社協の関わりについて

■津川則光氏(下矢部西部地区社協/熊本県)

【プログラム開発とコミュニティの連絡調整】

⇒廃校となった旧小学校を地域福祉の拠点へ再生させた「小規模多機能ホーム“絆”」について

④ 1月22日(土) 13:00～17:00

(会場/福岡市市民福祉プラザ)

内容/まとめ～コミュニティワーカーに求められるもの～

【参加費】 無料

【対象者】 社会福祉協議会の地域福祉担当職員  
【講師&コメンテーター】

稲葉美由紀先生(九州大学大学院言語文化研究院准教授)

【主催】 福岡県地域福祉活動職員連絡会

【申込み・問合せ】 筑後市社会福祉協議会

〒833-0032 福岡県筑後市野町680-1

TEL 0942-52-3969 FAX 0942-53-6677

Mail f\_chishokuren@yahoo.co.jp

Mail chikugo-syakyoku@athena.ocn.ne.jp

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒838-0126

福岡県小郡市二森1167-1

小郡市社会福祉協議会内

TEL 0942-73-1120

FAX 0942-72-5694

E-mail f\_chishokuren@yahoo.co.jp